

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 56
2020.12

TOPICS

1

「岡山大学統合報告フォーラム2020 -SDGs大学経営で育むエンゲージメントとは-」を開催



本学は、2回目となる統合報告書の発行にあたり、11月28日、「岡山大学統合報告フォーラム2020」を創立五十周年記念館で開催(オンライン同時配信)し、会場とオンラインを合わせて約200人が参加しました。

榎野博史学長は、SDGs大学経営について紹介するとともに、統合報告書2020に掲載されている3つのストーリーを紹介。「Pay it Forward(恩送り)とSDGsに関する活動が広がりを見せていることに触れ、「新たな価値を共に創造する共育・共創の輪を広げていくことが大切」と発信しました。続いて「SDGs大学経営で育むエンゲージメントとは」をテーマにパネルディスカッションを実施。参加者との意見交換では「エンゲージメント」に関する質問があり、榎野学長が「世界の課題に対して知恵を出し合って解決策を共に生み出そうというポジティブな考え」と回答するなど、活発なディスカッションとなりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9839.html



TOPICS

2

事業構想大学院大学と教育研究交流および協力に関する 包括連携協定を締結

12月2日、事業構想大学院大学(学校法人先端教育機構)と、教育研究交流および協力に関する包括連携協定を締結しました。

榎野博史学長は協定締結の経緯を説明し、田中里沙学長が「コロナ禍で日本全体がより濃密な知的交流の場作りを重視することになりますので、本協定がその装置として有効に有機的に機能しますよう、スピード感を持って価値創出の実績を出したく存じます」とあいさつ。出席者らがモニター越しに、協定書を手にして記念撮影しました。意見交換会では、「両大の共同によるFD(Faculty Development)・SD(Staff Development)研修を、学外にも開かれた形で実施したい」、「大学経営を事業構想という観点で考えるうえで、社会の一翼を担いつつ持続的なマネタイズ(収益化)を行うにはどうすればよいか、ぜひ力添えをいただきたい」など、今後の提携に向けて活発な意見を交わしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9846.html



Pick up!

「岡山イノベーションコンテスト」で 理学部・久保さんがグランプリ、工学部・宮本さんが大賞を受賞!



優れたビジネスモデルをコンテスト形式で評価する「岡山イノベーションコンテスト」のファイナルステージが11月29日に開催され、久保駿貴さん(理学部4年)がグランプリ、宮本大輝さん(工学部4年)が大賞を受賞しました。

久保さんは、最終面接に落ちた学生を企業間で推薦・採用できるプラットフォーム『ABABA』を提案。企業側はフィルタリングされた優秀な学生を確保でき、採用フローを大幅にカットできるメリットがあるほか、学生にとっても効率的な就職活動が実現します。宮本さんは、草食系男女のためのマッチングアプリ『スキッテ』を企画。草食系の男女が告白の失敗を回避するために、LINE友達限定でマッチングをするアプリを提案しました。

コンテストは、地域の起業家育成を目指す「岡山イノベーションプロジェクト」の一環で4度目の開催。今年は92組の応募がありました。大学生のグランプリ受賞は、4度目にして初の快挙です。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9834.html



TOPICS

3

「Global×Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発」 人材育成教育拠点採択のキックオフミーティングを開催

本学は、文部科学省の「保健医療分野におけるAI研究開発加速に向けた人材養成産学協働プロジェクト」へ、東北大学(主幹校)、北海道大学(連携校)と協力し、『「Global×Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発」人材育成教育拠点』を申請し、採択されました。12月9日には、キックオフミーティングを鹿田会館で開催。関係者約70人が会場とオンラインで参加しました。

プロジェクトは「地域ならではの豊富な医療課題をキュレーションし、AI解決までをデザインできる人材を広く養成すること」を達成目標に掲げ、博士課程人材養成プログラムを全国各地の大学や研究機関、民間企業、自治体と連携し推進します。トップエッジの高さと裾野の広さを強く意識し、AI人材育成モデルを構築し、教育カリキュラムでは最先端AI研究開発に係る講義から始まり、医療現場での実課題に対しそれらのAI知見を最適に活用する方法を身につけます。本学では、令和3年度4月に、大学院医歯薬学総合研究科博士課程に新コース「医療AI応用コース」を開設し、AI技術を、医療現場での実課題解決のため最適に活用できる人材育成の拠点を形成します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9868.html



TOPICS

4

中国学生ボート選手権大会で漕艇部の3艇が準優勝！



本学漕艇部の3艇が、11月14日・15日に芦田川漕艇場で開催された「第64回中国学生ボート選手権大会」でそれぞれ準優勝しました。

3艇は、男子シングルスカル「Procyon」(クルー:理学部2年清野雄大)、男子舵手付きフォア「桃太郎02」(クルー:工学部2年中村厚介、工学部2年武澤歩、教育学部1年野崎雅仁、環境理工学部2年眞鍋温機、法学部2年田中涼雅)と女子舵手付きクォドルプル「響」(クルー:教育学部4年佐々木優希、農学部3年大廣咲希、文学部2年岡崎あや、環境理工学部1年吉田和音、環境理工学部2年堀江里彩)です。

本大会には、本学のほか、広島大学、鳥取大学、愛媛大学、島根大学の約73人が参加。同部にとっては、新しい代になって初めての大会であり、今回の成績を振り返って、清野さんは「今自分が持っている力は十分に出すことができた。次の戦いに向けて練習を頑張りたい」と話していました。

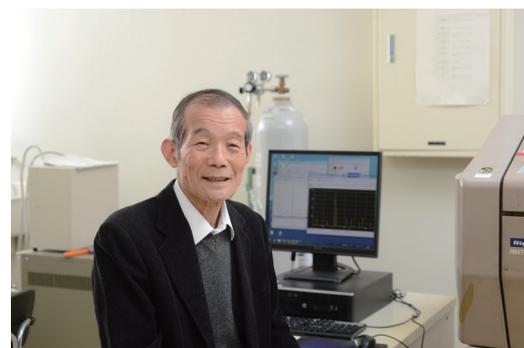
参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9875.html

PRESS
RELEASE

「消えては結ぶ磁気の渦」ノーベル賞予言に迫る 渦と反渦の観察 磁気模様の直接観察に世界で初めて成功

岡山大学異分野基礎科学研究所の秋光純特任教授、大阪府立大学の戸川欣彦教授、放送大学の岸根順一郎教授らの研究チームは、株式会社日立製作所と共同で、2次元性の強い磁性結晶において渦と反渦の磁気模様が対を成して現れる様子を直接観察することに世界で初めて成功しました。“消えては結ぶ磁気の渦”は結晶が磁性を示すようになる温度をまたいで観察されます。

この観察結果は、半世紀前に理論予言され2016年にノーベル物理学賞が授けられながらも、これまで実験が報告されていなかった“磁性体における2次元系特有の相転移現象”を示している可能性があります。物質が示す多彩な相転移現象に潜む普遍的な性質を明らかにする基礎学術的に重要な研究成果であり、日本物理学会が発刊する「Journal of the Physical Society of Japan」誌に12月7日に掲載されました。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id793.html

